

5 生徒のことが分かる場面

授業の中で、生徒を知る

授業中、どのような場面で、生徒の様子が把握できるでしょうか。例えば発問したときに、表情やしぐさを見て、「意味が伝わっていないかな」と思うことはありませんか。また、活動になかなか取り組めない生徒がいるとしたらどうでしょう。その生徒にとって、難しくてやり方が分からないのか、書くことをためらっているのか、取り組みたくないのか、生徒の立場に立って考え、生徒を知ること

授業以外で、生徒を知る

生徒の様子は、授業以外の場面でも把握できます。例えば、生徒と一緒に掃除をしながら、授業のことについてどのような感想をもっているのか、知ることができます。また、部活動や委員会活動の指導を行う中で、生徒の学習状況を知ることができます。

このように、学校生活全般を通じて、授業に対する生徒の率直な感想を聞いたり、生徒のことを理解したりする機会があります。

生徒とコミュニケーションを取る場面を大切にしましょう。

生徒を知ると、授業が変わる

生徒の興味・関心、既習事項への理解度等を把握していると、授業でどのような反応をするか、ある程度予想できます。生徒の実態に応じた授業づくりができ、予想外の反応にも落ち着いて対応することができます。



個別支援が必要な生徒への対応を考えよう

生徒の行動から見えてくるもの

生徒の気になる行動について、いつ、どのような場面で起こるのかなど、観察を続けてみましょう。行動ばかりに注目せず、背景に何があるのかを考えていくことが大切です。判断が付きにくい場合は、他の教員や教育相談コーディネーター、スクールカウンセラーに相談してみましょう。

☆インクルーシブ教育の視点も必要です。→1章-10

生徒のことが分かる場面

○ クラスの雰囲気

生徒の表情を見ることで、授業の内容を理解したのか、納得したのかなど、クラスの雰囲気を感じることができます。無意識にうなずくというジェスチャー等から、授業内容に納得したことを見取ることができます。

○ アンケート

板書、声の出し方、説明の仕方などの授業技術や、授業の改善を図ったことによる成果など、教員の知りたいことを焦点化して聞くことができます。

また、自由記述欄への記述では、生徒の率直な感想や教員が予想していなかった反応を知ることができます。

○ 発問

発問によって、理解の程度や思考過程などの生徒の認識を把握することができます。しかし、正解だけを問う一問一答だけでは不十分です。なぜそう考えたのか、どう思ったのかと発問することが必要になります。また、理由を問うことで、生徒の思考力を育成することにもつながります。 → 3章－1

○ 生徒との対話

授業が終わったとき、生徒にとって今日の授業はどうだったのか、しっかりと理解したのだろうかと気になります。そこで、「今日の授業はどうだった？」と直接生徒に話しかけてみましょう。授業が終わり、ホッとして緊張が解けたとき、生徒は本音で授業のことを話してくれます。

また、語りかける際には、「今日の授業分かった？」ではなく、「今日の授業で分からなかったことは？」と聞いてみると良いでしょう。

生徒の言葉を真摯に受け止めて、授業づくりにつなげてください。



プロフィールノート

生徒の性格や仲の良い友人、得意なことや苦手なこと、部活動や趣味など、様々な角度から生徒のことを把握できるように、「プロフィールノート」を作ってみてはどうでしょうか。一人1ページ位の分量が活用しやすいです。また、その生徒との授業中の関わりをメモしておくと、指導にもつながります。

ただし、個人情報の取扱いには十分注意しましょう。